

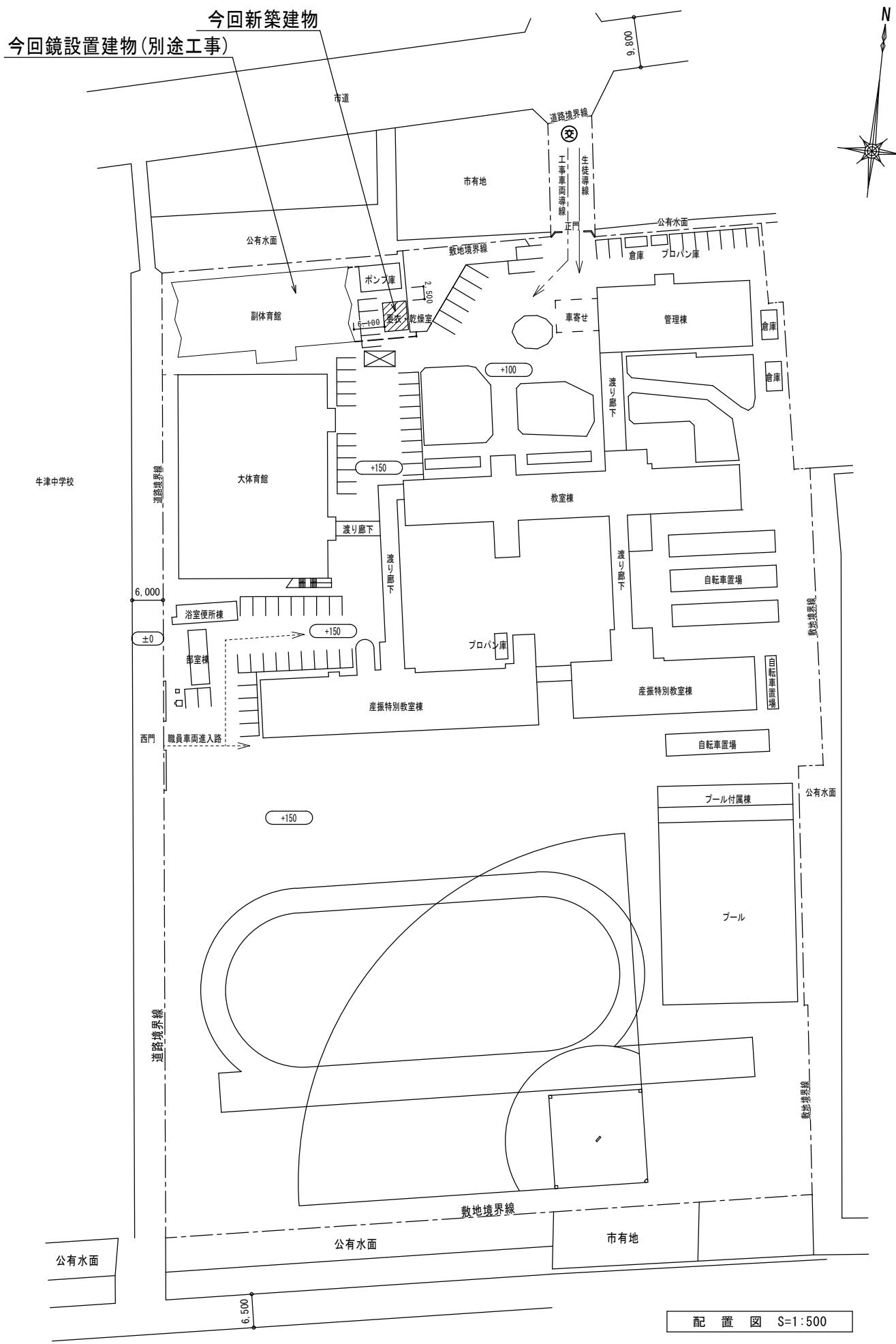
牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事 (プレファブユニット工事)

図面リスト			
図番号	図面名	図番号	図面名
PA-00	表紙・図面リスト	PA-14	特記仕様書(建築構造)その1
PA-01	特記仕様書(建築新営)その1	PA-15	特記仕様書(建築構造)その2
PA-02	特記仕様書(建築新営)その2	PA-16	特記仕様書(建築構造)その3
PA-03	特記仕様書(建築新営)その3	PA-17	特記仕様書(建築構造)その4
PA-04	特記仕様書(建築新営)その4	PA-18	配置図・附近見取図
PA-05	特記仕様書(建築新営)その5	PA-19	現況平面図・改修平面図
PA-06	特記仕様書(建築新営)その6	PA-20	フローファブユニット図
PA-07	特記仕様書(建築新営)その7	PA-21	矩計図・横断詳細図・伏図・軸組図・部材リスト
PA-08	特記仕様書(建築新営)その8	PA-22	基礎伏図・基礎詳細図
PA-09	特記仕様書(建築新営)その9	PE-01	電気設備 現況平面図・改修平面図
PA-10	特記仕様書(建築新営)その10		
PA-11	特記仕様書(建築新営)その11		
PA-12	特記仕様書(建築新営)その12		
PA-13	特記仕様書(建築新営)その13		

牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事（プレファブユニット工事）特記仕様書												
I 工事概要												
1 工事場所 小城市牛津町												
2 敷地面積 24,098.44m ²												
3 地域地区 都市計画区域（○内・外） 準都市計画区域（・内・外） 用途地域等（・・・） ○指定なし (・・・防火地域・準防火地域 ○法22条区域・指定なし)												
4 建物用途 部室												
5 建物概要												
建物名称 構造 階数 延べ面積 (m ²) 建築面積 (m ²) 建築基準法別表第1区分 備考												
乾燥・更衣室 S 1 25.99 25.99												
6 工事種目 プレファブユニット工事 基礎工事 木杭工事												
II 建築工事仕様												
1 共通仕様												
(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官房常務部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という）による。												
(2) 本工事に電気設備、機械設備工事を含む場合の特記仕様書は別図による。												
(3) 受注者は完了検査（中間検査を含む）には、特定行政庁（建築主事）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。												
2 特記仕様												
(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。 ◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ◎印と※印の付いた場合は、ともに適用する。 (3) 特記事項に記載の（・・・）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す。												
(4) ◎印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。判断の基準は「環境物品の調達の推進に関する基本方針（令和5年2月版）」（環境省のホームページからダウンロード可能）による。 (5) 関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応について、監督職員と協議すること。 (6) 形状寸法の単位は、特記無き限りミリメートルとする。												
章 項 目 特記事項												
各章共通事項	① 適用基準等		※建築工事標準詳細図（令和4年版） ・構内舗装・排水設計基準（平成31年版） ・擁壁設計標準図（平成12年版） ・敷地調査共通仕様書（令和4年改定） ・エクステンション施設整備基準 (佐賀県福祉のまちづくり条例 施設整備マニュアル) ・施設におけるわかりやすいユニバーサルデザインのサイン (佐賀県県土づくり本部建築住宅課発行) ・土木工事等共通仕様書（佐賀県県土整備部） ・建築物解体工事共通仕様書（令和4年版） ・発注者に引渡しを要するもの (・金属類・PCB含有物・)									
	② 発生材の処理		特定建設資材の分別解体等及び再資源化等 ・本工事は特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に係る法律」（平成12年5月31日法第104号。以下「建設リサイクル法」という）施行令又は都道府県が条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずる。 工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、予定した条件によりがたい場合は、監督職員と協議する。									
共通事項												
工事名 牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事（プレファブユニット工事）												
図面名 特記仕様書（建築新規）その1												
設計者 令和7年10月												
一級建築士登録第 号												
図番号 PA-01												

④ 地業工事	1 地盤調査の結果	調査位置、柱状図、地層構成、地下水位 ・図示による () ・		工法 ・アーボーリング 拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法 杭周固定液 ・使用する ・使用しない 杭の支持層への根入れ長さ ・図示による () ・評定等の評価内容による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・評定等の評価内容による 杭の傾斜 ・評定等の評価内容による 杭継手工法 ・7-ク溶接継手 ・標準仕様書4.3.6による ・溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・図示による ・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ※評定等を受けた工法 (図による) 検査 ※評定等により定められた項目 (図による) 施工 ※評定等をされた施工管理基準による (図による) 杭頭の処理 ・行う ・處理方法 (切断を伴う補強方法含む) ・図示による () ・行わない 杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンクリートと同調合のもの 杭の種類 ・SKK400 ・SKK490 試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う 試験杭の位置、本数 ※最初の一本 ・図示による () 杭先端部形状 ・開放形 ・半開放形 ・閉そく形 施工方法 ・セメント工法 アースガードの支持地盤への掘削深さ ・図示による 杭の支持地盤への根入れ長さ ・図示による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・1/100以内 ・特定埋込杭工法 H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha = 250$ を採用できる工法 ・図示による () 上記以外の特定埋込杭工法 ・図示による ()	杭の現場継手 ・アーボーリング 拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法 ・溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・図示による () ・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ※評定等を受けた工法 (図による) 検査 ※評定等により定められた項目 (図による) 施工 ※評定等をされた施工管理基準による (図による) 杭頭の処理 ・行う ・處理方法 (切断を伴う補強方法含む) ・図示による () ・行わない 杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンクリートと同調合のもの 杭の種類 ・SKK400 ・SKK490 試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う 試験杭の位置、本数 ※最初の一本 ・図示による () 杭先端部形状 ・開放形 ・半開放形 ・閉そく形 施工方法 ・セメント工法 アースガードの支持地盤への掘削深さ ・図示による 杭の支持地盤への根入れ長さ ・図示による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・評定等の評価内容による 杭の傾斜 ・評定等の評価内容による 工法 ・アーボーリング 拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法 ・鋼管リサイクル杭工法 ・回転杭工法 杭の根入れ長さ ・評定等の評価内容による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・評定等の評価内容による 杭の傾斜 ・評定等の評価内容による	6 地盤改良 (セメント系固化材を用いた工法による改良) 工法 ・浅層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験 ・図示による () 长期設計支持力 ・ () kN/m ² ・深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験 ・図示による () 长期設計支持力 ・ (50) kN/m ² 形状、支持地盤、仕様 ・図示による () 长期設計支持力 ・ () kN/m ² セメントの種類 ・高炉セメントB種 [6] コンクリートの設計基準強度 ・ () kN/m ² 構造体強度補正值(S) ・ () kN/m ² 工法 ・ () 仕様、範囲、計測、試験等 ・図示による () 材料 ※再生プラスチック [6] ・切込砂利及び切込碎石 厚さ及び使用範囲 厚さ ・使用範囲 ※60 基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・100 耐圧板 セメントの種類 ※高炉セメントB種 [6] 厚さ及び使用範囲 厚さ ・使用範囲 ※50 基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下 ・				
	2 支持地盤	杭基礎 (3.2.1) (4.2.4) (4.3.4, 5) (4.4.4) (4.5.5, 6) 支持地盤の種類及び位置(基礎ぐいの先端の位置含む) ・図示による () 直接基礎 支持地盤の種類及び位置(基礎底部の位置含む) ・図示による () 長期設計支持力 ・ () kN/m ² 試験掘(根切り底)による支持地盤の確認 ・行う 位置等は図示による () ・行わない ・地盤の載荷試験 ・行う 試験の位置、方法等は図示による () ・行わない 種類 (4.2.2) (4.3.1) (4.3.3) ~ (4.3.6) (4.3.8) ・遠心高強度アレストレストコンクリート杭(PHC杭) ・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭) SC杭の鋼管材料 SKK400 SKK490 ・プレストレス鉄筋コンクリート杭(PRC杭) 試験掘 ・あり 孔径はおがー径とする 位置等は図示による () ・なし (4.2.2) (4.3.3) 杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種別)、寸法、継手数等 種類 種別 N/mm ² 杭径 mm 杭長 mm 継手数 長期設計 支持力 kN/本		5 場所打ちコンクリート杭地業	杭径、長さ、仕様等 ・図示による () 材料その他 帶筋の加工及び組立 ・図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)6.2帯筋(b)(3)④(口)) 鉄筋かごの補強 ※4.5.4(1)(イ)(c)による 鉄筋の最小かぶり厚さ ・図示による () 組み立てた鉄筋の節ごとの継手 ・重ね継手 重ね継手の長さ ・図示による () 主筋の基礎底盤への定着長さ ・図示による () セメントの種類 ・高炉セメントB種 [6]	6 地盤改良 (セメント系固化材を用いた工法による改良) 工法 ・浅層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験 ・図示による () 长期設計支持力 ・ () kN/m ² ・深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験 ・図示による () 长期設計支持力 ・ (50) kN/m ² 形状、支持地盤、仕様 ・図示による () 长期設計支持力 ・ () kN/m ² セメントの種類 ・高炉セメントB種 [6] コンクリートの設計基準強度 ・ () kN/m ² 構造体強度補正值(S) ・ () kN/m ² 工法 ・ () 仕様、範囲、計測、試験等 ・図示による () 材料 ※再生プラスチック [6] ・切込砂利及び切込碎石 厚さ及び使用範囲 厚さ ・使用範囲 ※60 基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・100 耐圧板 セメントの種類 ※高炉セメントB種 [6] 厚さ及び使用範囲 厚さ ・使用範囲 ※50 基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下 ・				
	3 既製コンクリート杭地業	杭頭の処理 ・行う ・處理方法 (切断を伴う補強方法含む) ・図示による () ・行わない 杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンクリートと同調合のもの 種類の記号 ・SKK400 ・SKK490 (4.2.2) (4.4.3) ~ (4.4.6)		7 置換コンクリート地業(ラップコンクリート地業)	杭頭の処理 ・行う ・處理方法 (切断を伴う補強方法含む) ・図示による () ・行わない 杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンクリートと同調合のもの 種類の記号 ・SKK400 ・SKK490 (4.2.2) (4.4.3) ~ (4.4.6)	8 液状化対策	9 砂利地業	10 捨コンクリート地業	11 床下防湿層	
	4 鋼杭地業	杭の種類、寸法、継手等 ・SKK400 ・SKK490 (4.2.2) (4.4.3) ~ (4.4.6)		試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う	試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う	試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う	試験杭の位置、本数 ※最初の一本 ・図示による ()	試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う	施工範囲 ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)	
	試験杭	上杭 中杭 下杭		試験杭	上杭 中杭 下杭	本杭	上杭 中杭 下杭	試験杭	施工範囲 ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)	
	本杭	上杭 中杭 下杭		試験杭	上杭 中杭 下杭	本杭	上杭 中杭 下杭	試験杭	施工範囲 ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)	
	試験杭の施工	※本杭の施工に先立ち行う		試験杭の施工	※本杭の施工に先立ち行う	試験杭の施工	※本杭の施工に先立ち行う	試験杭の施工	※本杭の施工に先立ち行う	
	試験杭の位置、本数	※最初の一本 ・図示による ()		試験杭の位置、本数	※最初の一本 ・図示による ()	試験杭の位置、本数	※最初の一本 ・図示による ()	試験杭の位置、本数	※最初の一本 ・図示による ()	
	杭先端部形状	・開放形 ・半開放形 ・閉そく形		杭先端部形状	・開放形 ・半開放形 ・閉そく形	杭先端部形状	・開放形 ・半開放形 ・閉そく形	杭先端部形状	・開放形 ・半開放形 ・閉そく形	
	施工方法	・セメント工法 アースガードの支持地盤への掘削深さ ・図示による 杭の支持地盤への根入れ長さ ・図示による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・1/100以内 ・特定埋込杭工法 H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha = 250$ を採用できる工法 ・図示による () 上記以外の特定埋込杭工法 ・図示による ()		施工方法 ・特定期工法 H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha = 250$ を採用できる工法 ・図示による 杭の支持地盤への根入れ長さ ・図示による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・1/100以内 ・特定埋込杭工法 H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha = 250$ を採用できる工法 ・図示による () 上記以外の特定埋込杭工法 ・図示による ()	施工方法 ・アーボーリング工法 安定液 ・使用する ・使用しない ・リバース工法 ・オーリーフィン工法 孔内の水張り ・行う ・行わない 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 SKK400 SKK490 ・杭底杭工法 安定液 ・使用する ・使用しない	施工方法 ・アーボーリング工法 安定液 ・使用する ・使用しない ・リバース工法 ・オーリーフィン工法 孔内の水張り ・行う ・行わない 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 SKK400 SKK490 ・杭底杭工法 安定液 ・使用する ・使用しない	施工方法 ・アーボーリング工法 安定液 ・使用する ・使用しない ・リバース工法 ・オーリーフィン工法 孔内の水張り ・行う ・行わない 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 SKK400 SKK490 ・杭底杭工法 安定液 ・使用する ・使用しない	施工方法 ・アーボーリング工法 安定液 ・使用する ・使用しない ・リバース工法 ・オーリーフィン工法 孔内の水張り ・行う ・行わない 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 SKK400 SKK490 ・杭底杭工法 安定液 ・使用する ・使用しない	施工方法 ・アーボーリング工法 安定液 ・使用する ・使用しない ・リバース工法 ・オーリーフィン工法 孔内の水張り ・行う ・行わない 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 SKK400 SKK490 ・杭底杭工法 安定液 ・使用する ・使用しない	施工方法 ・アーボーリング工法 安定液 ・使用する ・使用しない ・リバース工法 ・オーリーフィン工法 孔内の水張り ・行う ・行わない 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 SKK400 SKK490 ・杭底杭工法 安定液 ・使用する ・使用しない
	工事名	牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)		縮尺	-					
	図面名	特記仕様書(建築構造)その1		設計	令和7年10月	一級建築士登録第 号	PA-14			

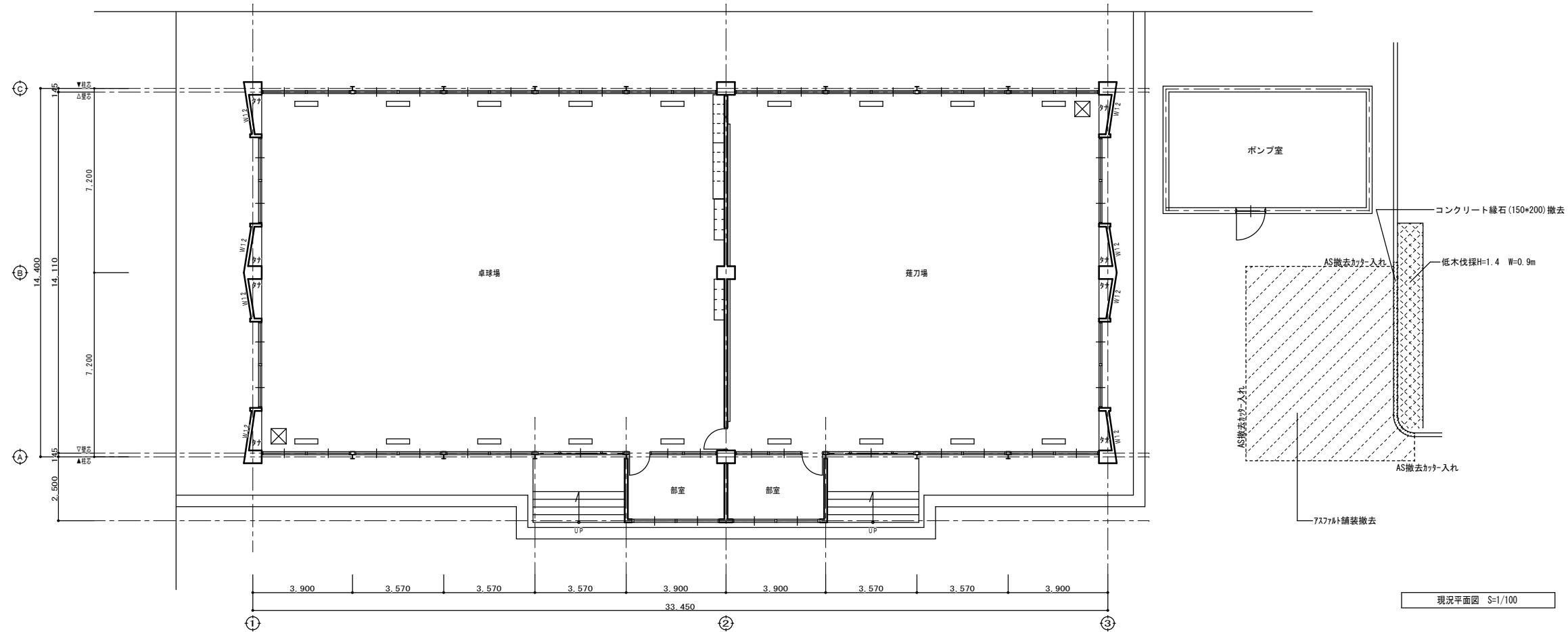
⑥ コンクリート工事 続き	9 無筋コンクリート	コンクリートの種類 ※普通コンクリート	(6.14.1)	7 鉄骨工事	1 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3) ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構、(旧社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める()グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場・監督職員の承諾する工場(標仕7.1.1以外の適用範囲に限る。)	(7.1.3)	6 溶融亜鉛めっき高力ボルト	セットの種類 ・1種(F8T相当)・	11 スタット	材質、形状及び寸法 ※頭付きスタット JIS B 1198	(7.2.8)
		適用箇所 ・標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・標準仕様書6.14.1(4)以外の箇所 ・図示による()	(6.14.1)			溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 ・図示による()			呼び名等	呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
		設計基準強度 ※18N/mm ²	(6.14.1)			溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・大臣認定を受けた内容による			16			
		スラブ ※15cm又は18cm				ホルトの端距離、ホルト間隔、ケーシ等 ・図示による(構造関係共通事項 構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1線端距離及びホルト間隔による)			19			
		適用箇所 ・図示による()	(6.15.1)			摩擦面の処理 ・ラスト処理(表面粗度50μmRz以上)又はリン酸塩処理 リ酸塩処理とした場合はすべり係数値の確認を行う ・すべり係数試験 試験方法 ・「高力ボルト接合設計施工ガイドブック(日本建築学会)」			22			
		打継ぎの位置、 ひび割れ 誘発目地、 打継目地				適用 ・構造用アンカーボルト ・ABR400 セットの種類(JIS B 1220) ・ABR490 セットの種類(JIS B 1220) ・SNR400B アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ・標準仕様書表7.2.3による ・形状、寸法 ・図示による()			12 柱底均し モルタル	モルタルの種類 ・標準仕様書7.2.9(1)による ※無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料、調合等 材料、調合等 ・品質及び試験方法 ※標準仕様書表7.2.5による	(7.2.9)	
		打継ぎの位置 ・標準仕様書6.6.4(1)による ・図示による()	(6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)			13 工作図	監督職員による現寸検査 ・行わない ・行う	(7.3.2)				
		目地寸法 ・標準仕様書9.7.3による ・図示による()				14 鉄骨の製作精度	増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上作成を行う					
	12 コンクリートの仕上り	間隔、位置、形状 ・図示による()				※標準仕様書7.3.3による	(7.3.3)					
		部材の位置及び断面寸法の許容差 ※標準仕様書表6.2.3による	(6.2.5)(表6.2.3)			溶接ずれ及び食い違い ・溶接部はH12建告示1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること ・溶接ずれ及び食い違いはH12建告示1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り。 図示() 補強方法 ・「突き合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・マニュアル(建築研究所監修)」による。						
		合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ ※コンクリートの打放し仕上げ種別と適用箇所は図示による				15 鉄骨の仮組	・行わない ・行う 仮組を行う範囲 ・図示による()	(7.3.10)				
		コンクリートの仕上がりの平たんさ 種別 ・a種 ・b種 ・c種				16 溶接技能者の技量付加試験	試験の要領及び付加試験を要する溶接箇所 ・図示による()	(7.6.3)				
		打増し厚さ (打放し 仕上げ部) 打増し厚さ(20mm) 打増し厚さ(内部に面する部分に限る) 外壁タイル張りで、MCR工法又は目荒らし(高压水洗)工法を行う場合は外部側に20mmの打増しを行う	(6.8.2)			17 溶接接合	開先の形状 ・図示による() ・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-2) ・カットの形状 ・図示による() ・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4) エンドカットの切除する部分 ・全て ・見え掛り部となる部分 ・切除する部分なし ・	(7.6.4)				
		せき板の材料 ○合板()	(6.8.2)			切断する範囲 ・鋼製エンドカット、裏あて金等は、梁フランジの端から直線状に切断する。その際の残し寸法は5mm以下とする。 なお、切断面が交差する場合は交差部を7-10状に加工する。		(7.6.7)				
		せき板の厚さ ○12mm				切断面の仕上げ ・標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)による						
		断熱材の兼用 ・行う 適用箇所() ・行わない	(6.8.3)			溶接部の余盛り高さ ・JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」付表3[溶接]による		(7.6.7)				
		刈りづの材種、規格等 ※標仕6.8.2(9)(7)(イ)による	(6.8.3)			低応力高サイクル疲労を受ける部位 ・図示による						
⑭ 型枠	15 コンクリートの 単位水量 測定	実施要領 ・図示による(構造関係共通図(構造関係共通事項) 構-2.1.コンクリートの単位水量測定)	(6.5.1)	5 普通ボルト	6 溶接材料	床構造用 ティッピングレート	縮尺 -	11 スタット	図番号 PA-16			
		適用箇所 ※ビット				牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)						
		材質 ※水膨張性コンクリート打継止水材寸法w20×t10				特記仕様書(建築構造)その3						
		※表6.9.2による	(6.9.2~5)(表6.9.2)			設計 令和7年10月	一級建築士登録第号					



※ 指定仮設				特記事項
記号	名 称	仕 様	数 量	
—	プラスチックフェンス	H=1.0m	15.0 m	※ 仮設計画においては学校側と協議すること。
(○)	交通誘導員	B	2 人	※ 交通誘導員は大型工事車両の誘導の安全誘導に従事し、車の出入りの状況に応じて配置すること。
■	ラフテレンクリーン	10 t	1 台	※ 現場の状況から仮設計画の変更が必要な場合は、設計変更の対象とする。

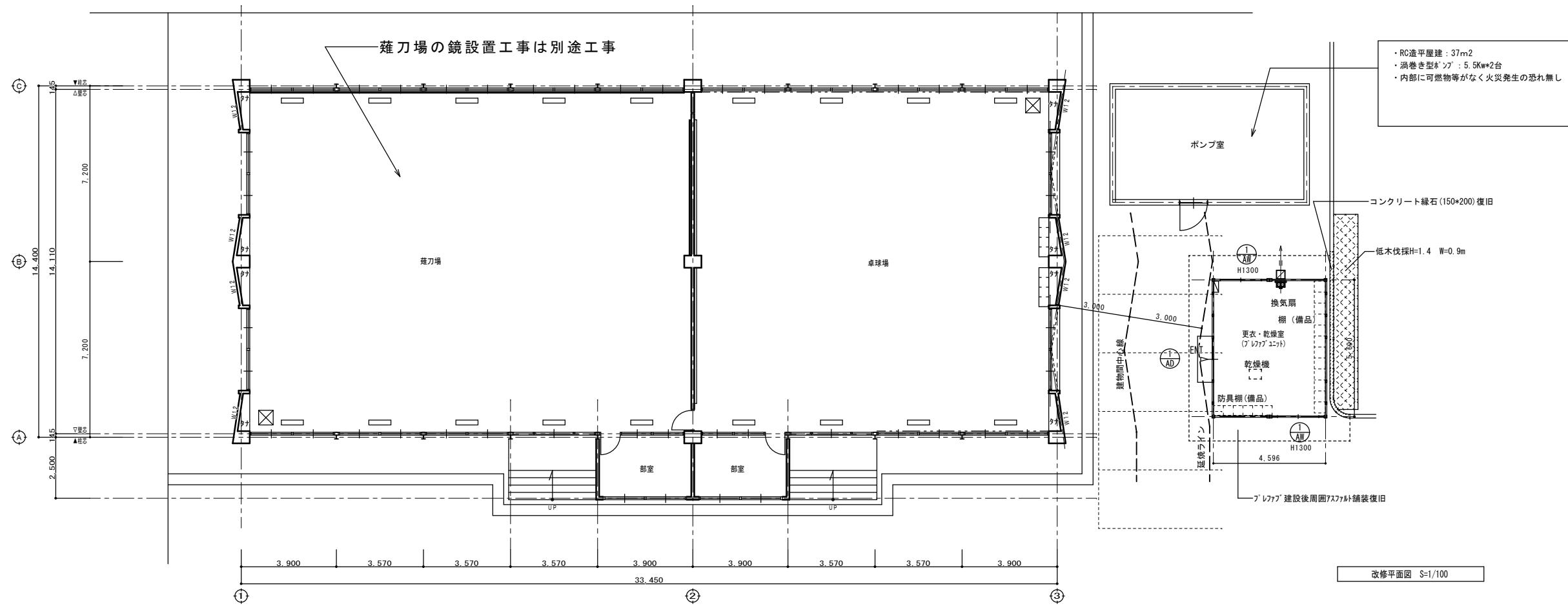
工事名	図面名	設計変更年月日	配置図・附近見取図	A1:1/500	1級建築士登録第 号	PA / 18
		1回 年 月 日		A3:1/1000		
		2回 年 月 日				
		3回 年 月 日				

N



現況平面図 S=1/100

N



改修平面図 S=1/100

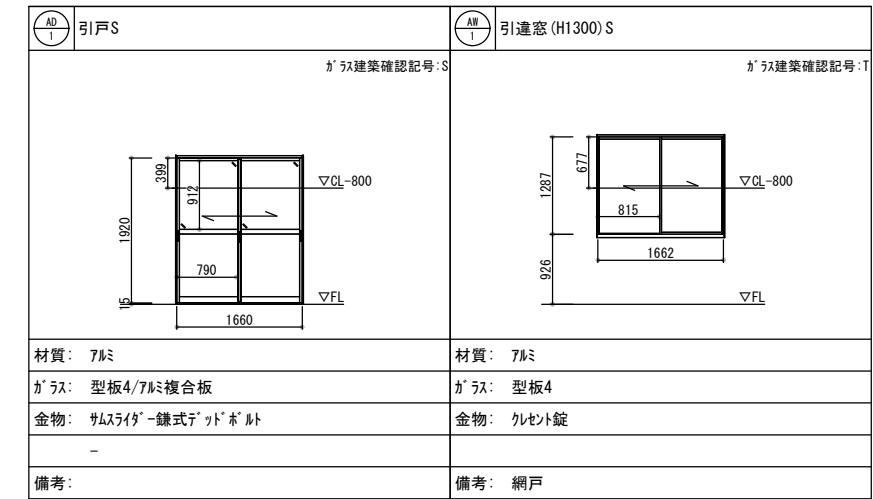
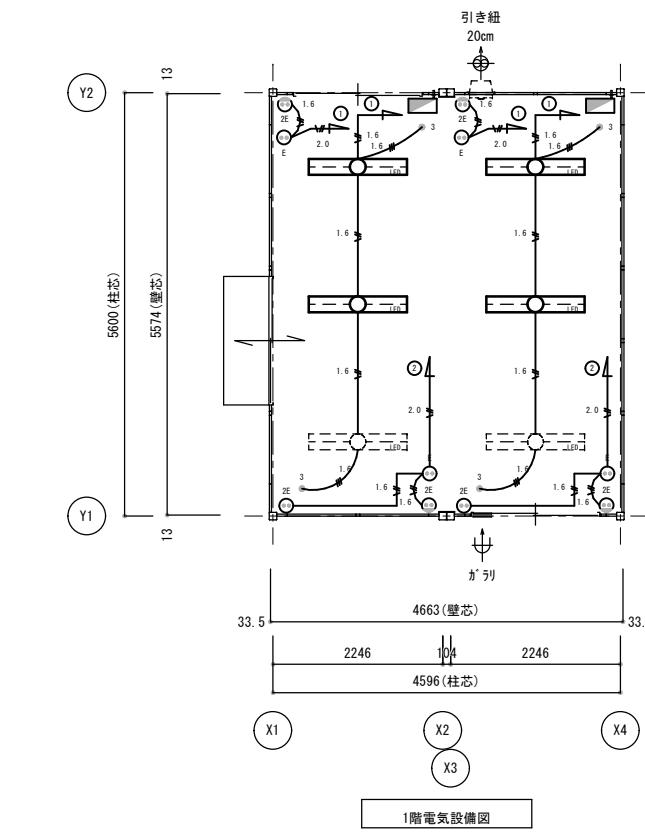
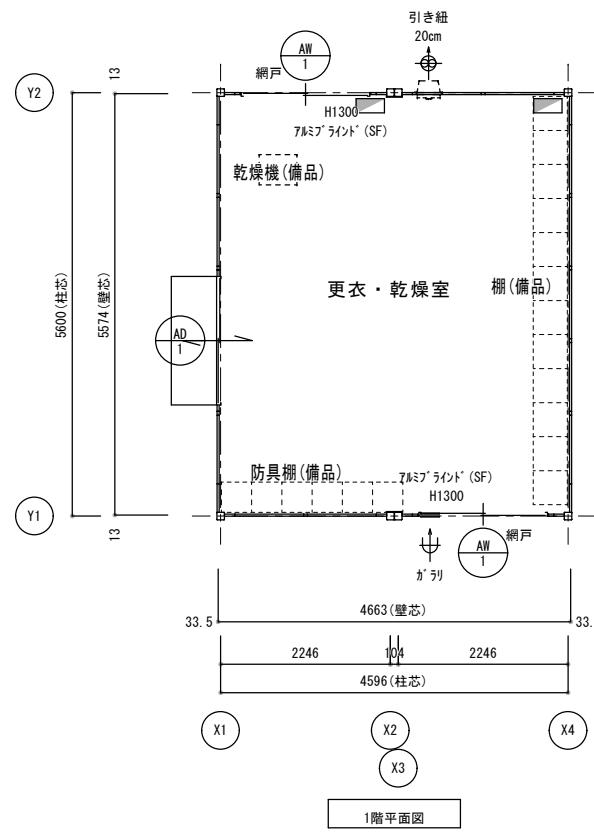
工事名	設計変更年月日	現況平面図・改修平面図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	1級建築士登録第号	図面番号 A 13
	1回年月日				
	2回年月日				
牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)	3回年月日				

参考図

■ 外部仕様		
名称	仕様	色
屋根	仕上:金属折板 t=0.5 断熱材:スチロフォーム t=25	(不燃NM-8697) シルバー - N5.5
雨樋	軒樋:鋼板t=1.6+塗装 縦樋:なし	Vハ形色
庇	コノクサ - W1760 外部仕上:ガルーフ鋼板t=0.27 断熱材:スチロフォーム t=25	ビュアルハーフ
外壁(複合ハーフ)	内部仕上:ガルーフ鋼板t=0.27 (不燃NM-8697)	Vハ形色
塗装	鉄部見え掛かり・錆止め 一液型塗料・シリコン下塗り塗装	(不燃NM-8697) Vハ形色
外部工具	7mスケッショ	シルバー -

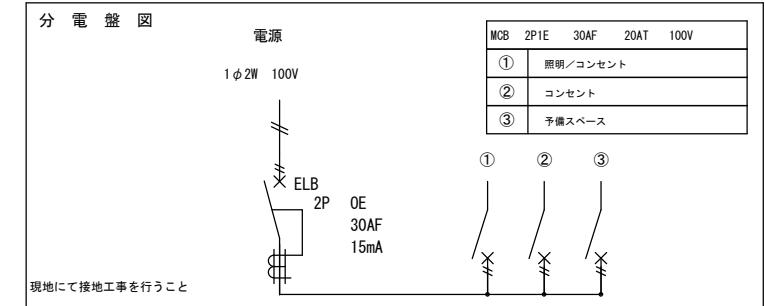
■ 建物面積		
建築面積	1階床面積	延べ床面積
25.99 m ²	25.99 m ²	25.99 m ²

■ 換気給気設備 凡例		
記号	名称	
20cm換気扇 引き紐スイッチ	樹脂製フード	
ガリ155x205給気口	ステンレス製ガリ	防虫網付



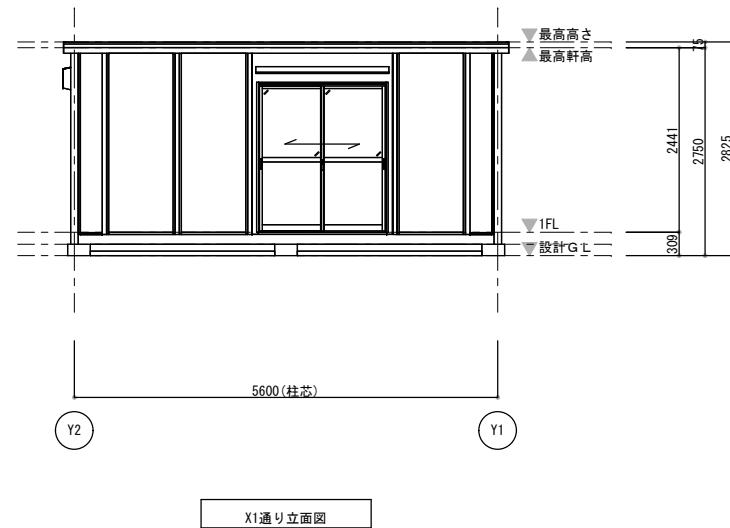
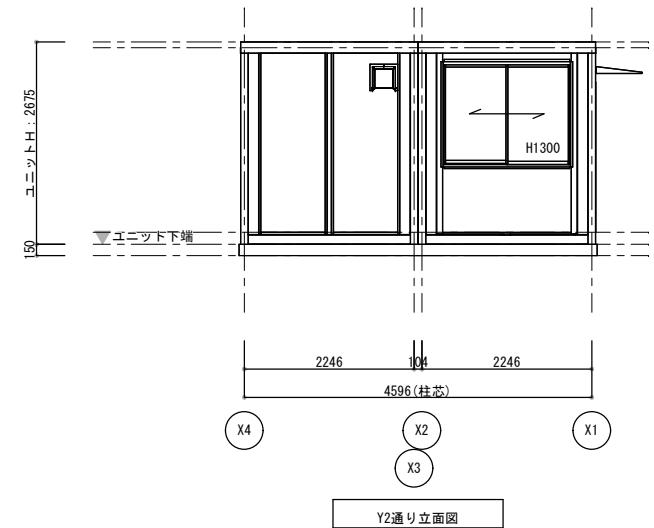
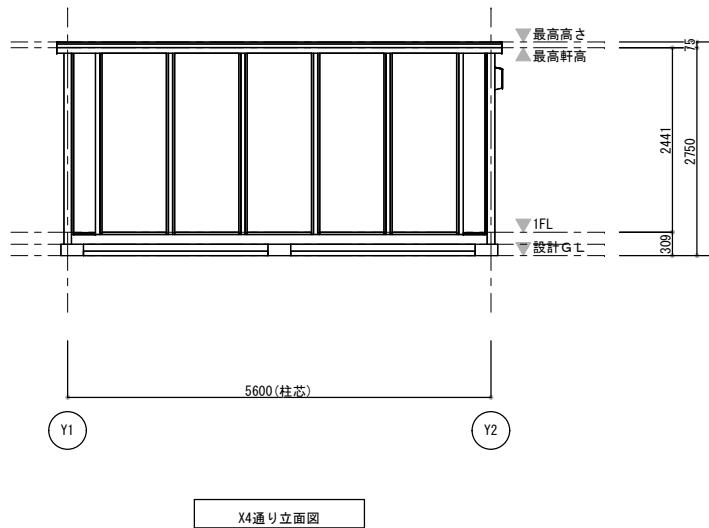
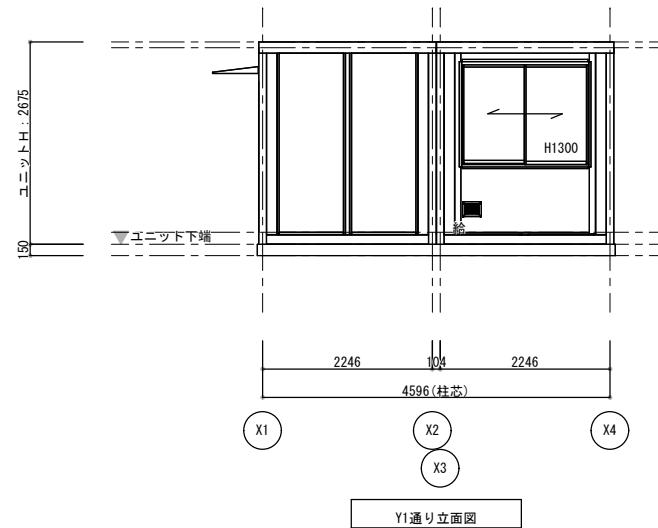
凡 例		
名称	記号	仕様
照明器具	LEDベースライト	
分電盤	別図に示す	
天井付けコンセント	15A×口数 125V	
壁付けコンセント	2口の合計15Aまで 125V	
スイッチ	3路スイッチ 300V 10A	
電線	VV-F1.6-3C ただし 1Cは7-芯線 VV-F2.0-3C ただし 1Cは7-芯線 VV-F1.6-3C	

各コンセント・照明は7-芯付です。



回路②の7-芯線は、途中で回路①の7-芯配線に合流。

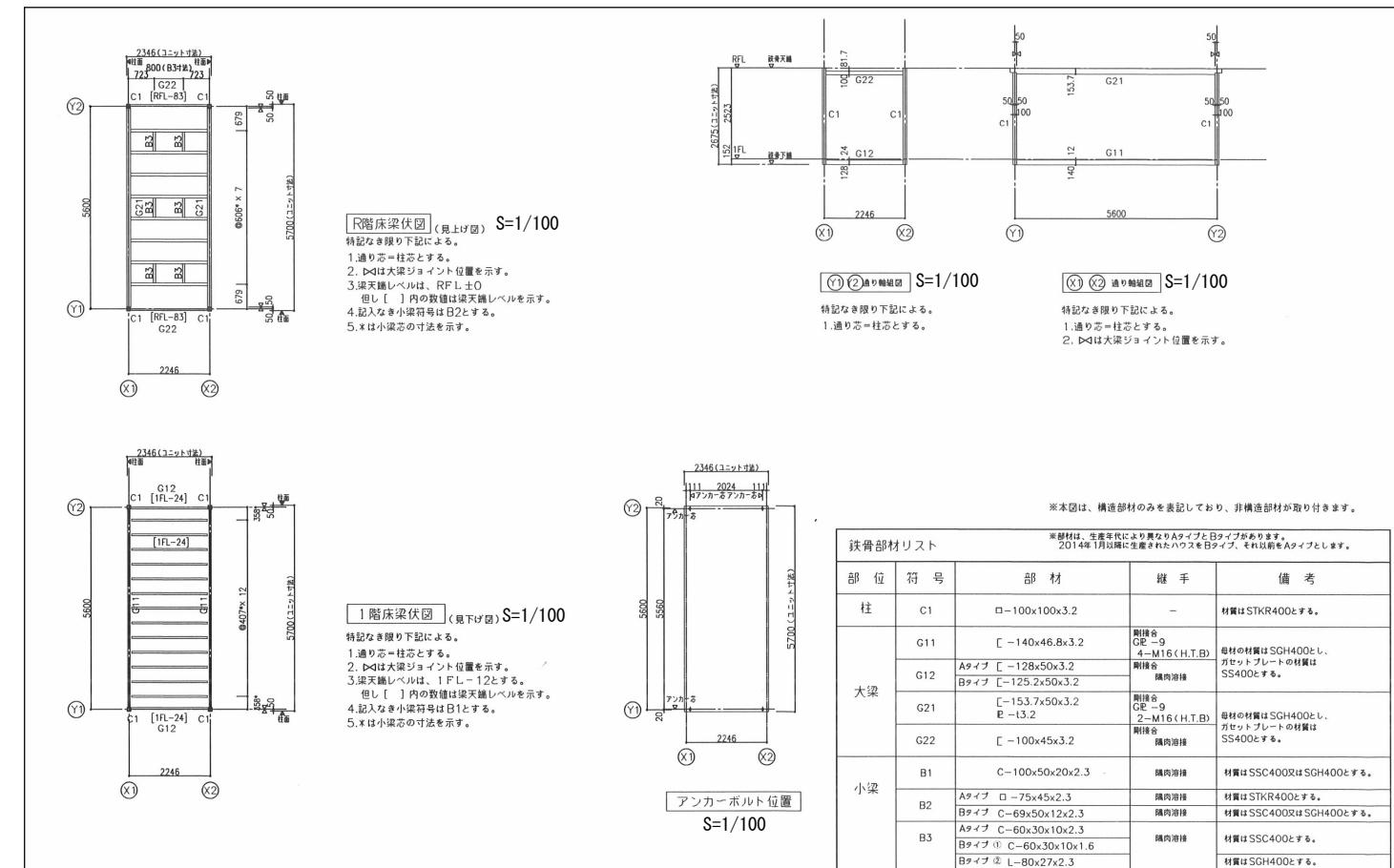
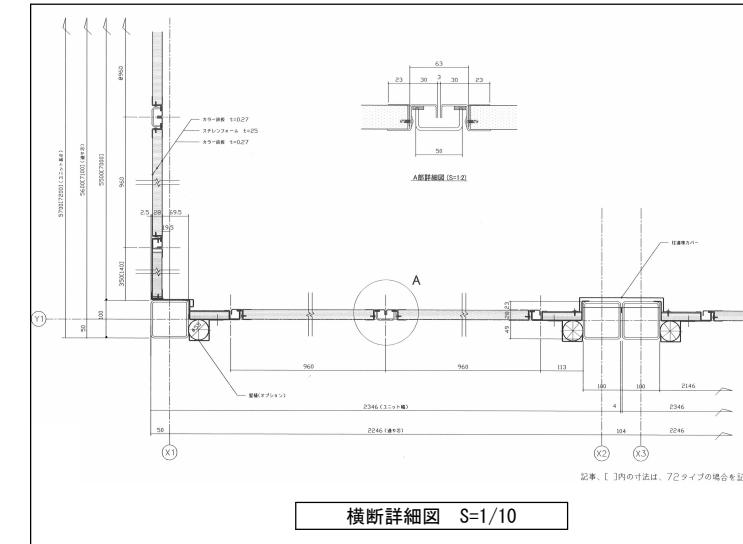
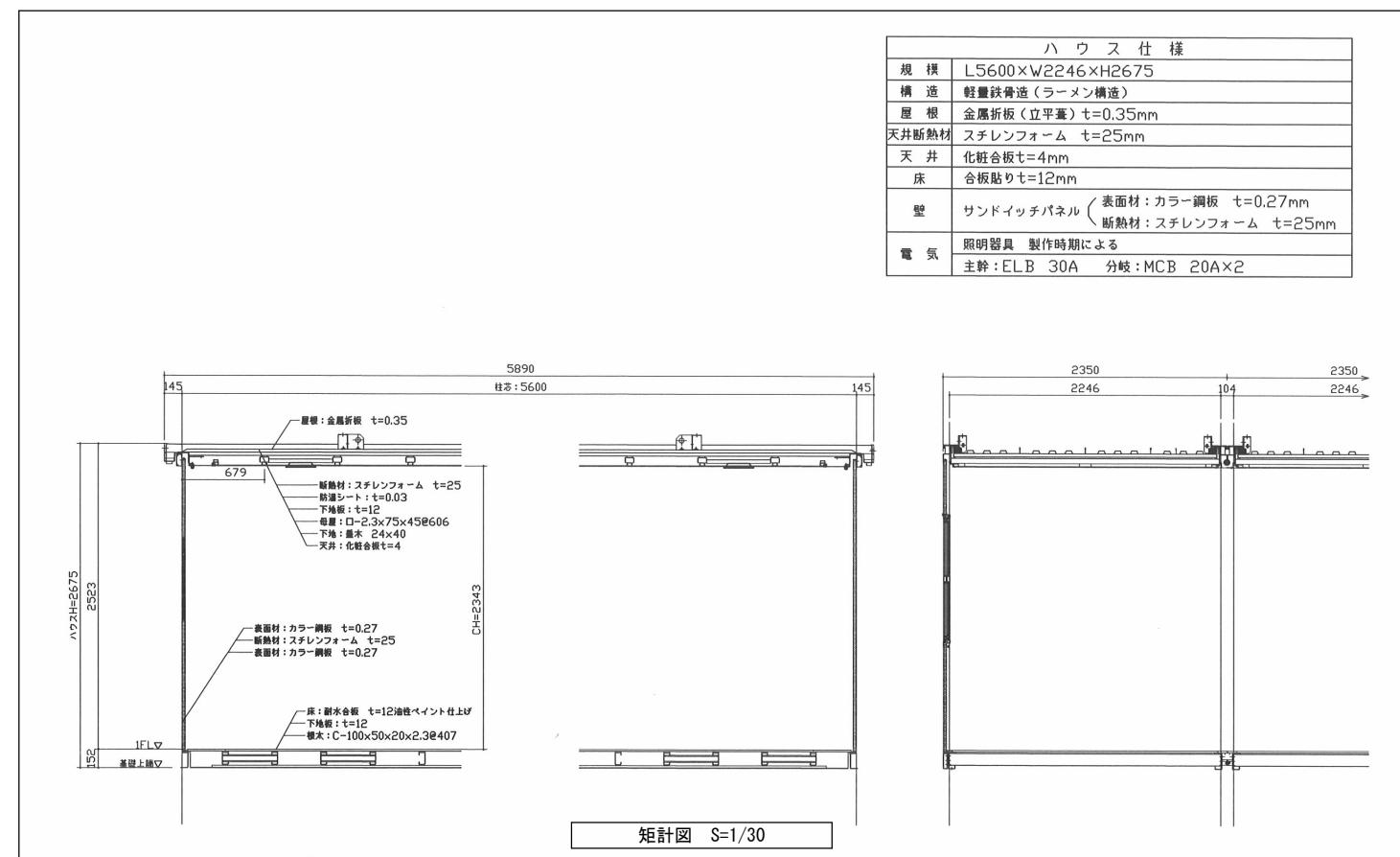
7-芯線は、全て1.6mmの物を使用。



*三協フロンティア 1F:CT-54J(S)連棟同等品とする。

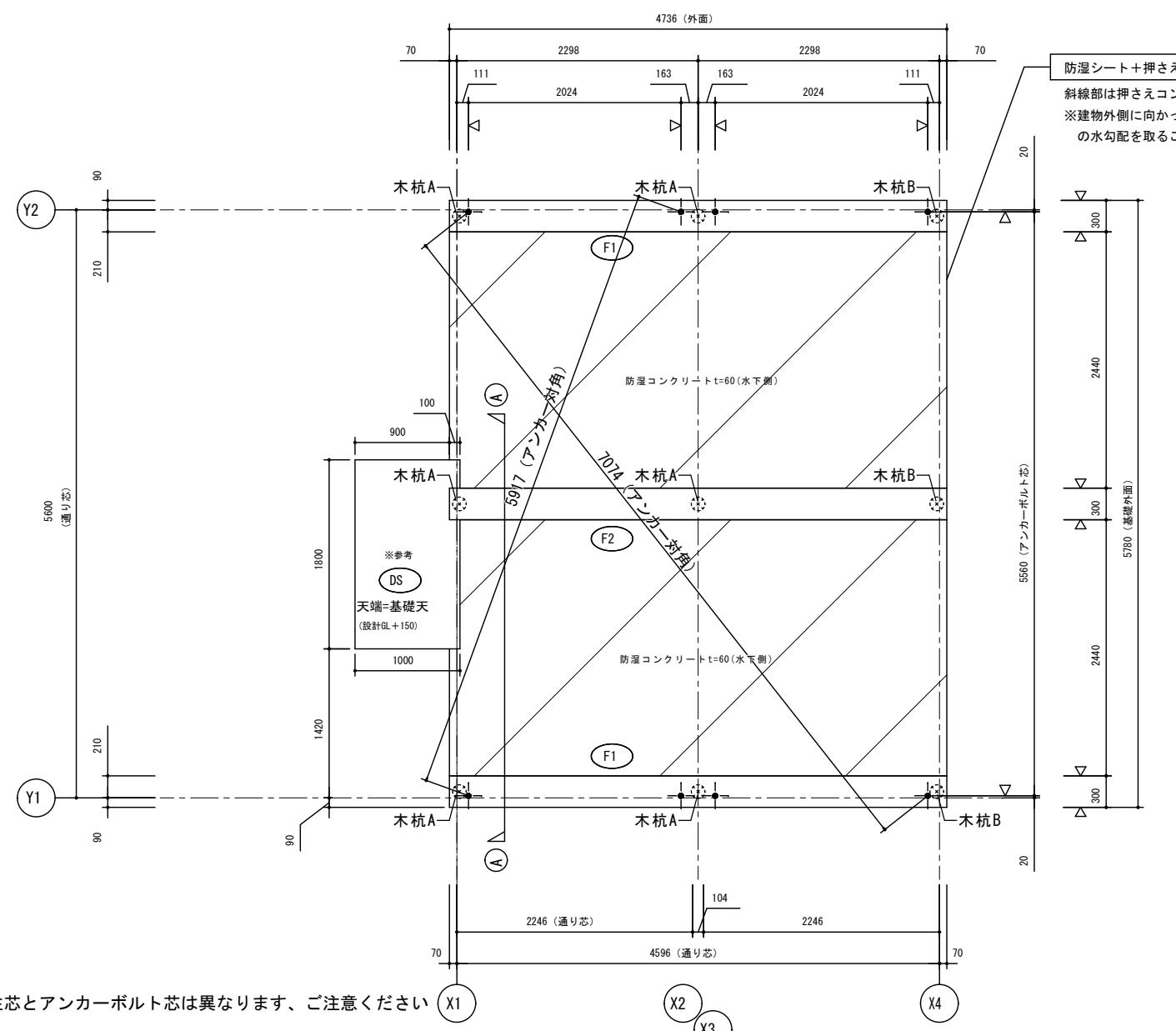
工事名	図面名	設計変更年月日	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	1級建築士登録第 号	図面番号 PA 18	
		1回 年 月 日				
		2回 年 月 日				
		3回 年 月 日				
牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)						
ブレラファブユニット図						
設計 年 月						

参考図



工事名	図面名	設計変更年月日	縮尺 A1:1/10,30,100 A3:1/20,60,200	1級建築士登録第号	画面番号 PA / 19
		1回 年月日			
		2回 年月日			
	牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)	3回 年月日			
	矩計図・横断詳細図・伏図・軸組図・部材リスト				

参考図



基礎伏図 (見下げる)

- 特記なき限り下記による。

 1. 基礎天端は設計GL+150とする。
 2. 基礎下端は設計GL-120とする。
 3. ↗はアンカーボルトを示す。
 4. 特記なき ▽はアンカーボルト芯を示す。
 5. 特記なき ▼は基礎面を示す。
 - 6.

※木杭リスト(杉)	
木杭A	Φ 130*4. 5m (防腐防蟻処理)
木杭B	下杭 Φ 120*5. 5m + 中杭 Φ 120*5. 0m + 上杭 Φ 150*3. 0m (防腐防蟻処理)

長期許容支持力 $qa = 30 \text{ kN/m}^2$

使用材料

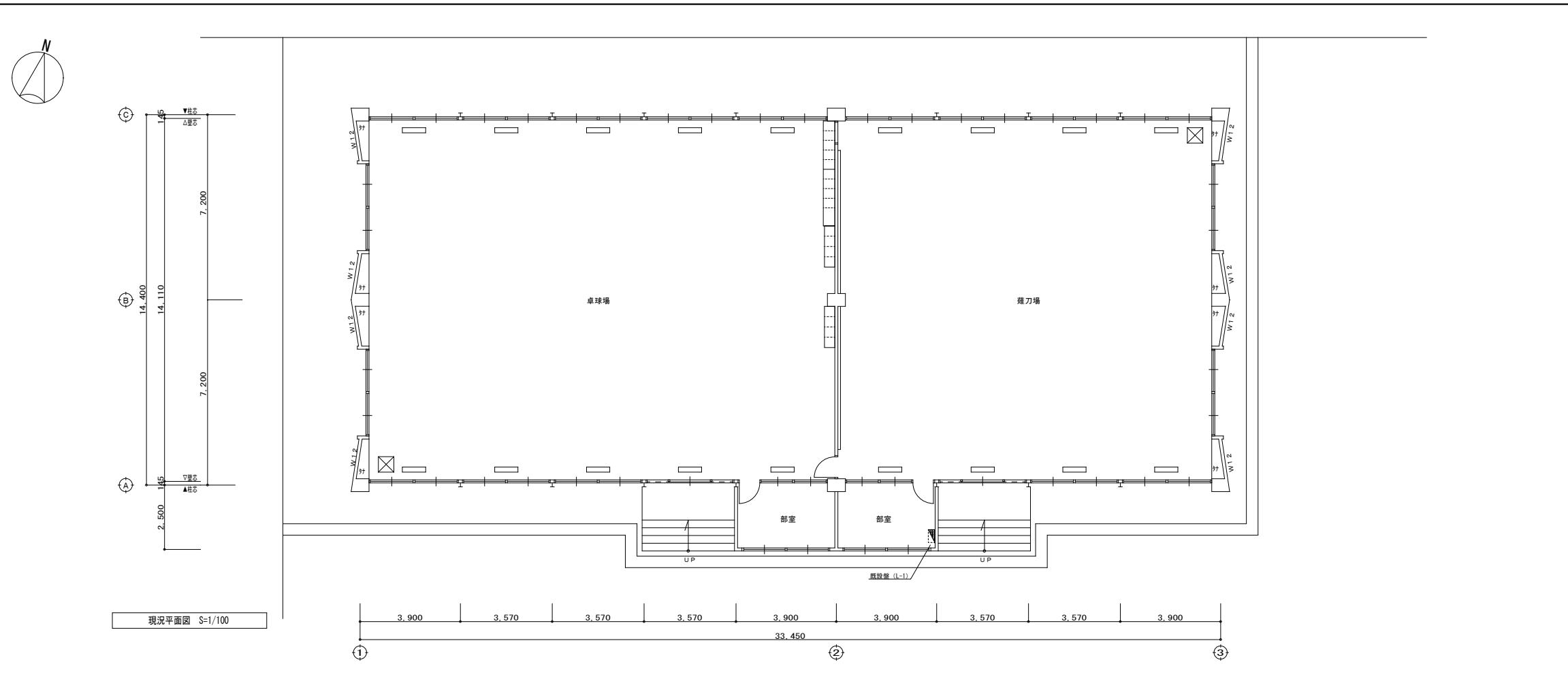
- 1) コンクリート
 設計基準強度 $F_c = 18 \text{ (N/mm}^2\text{)}$
 品質基準強度 $F_q = 18 \text{ (N/mm}^2\text{)}$
 調合管理強度 $F_m = 18 + mS_p \text{ (N/mm}^2\text{)}$

※調合管理強度は品質基準強度に構造体強度

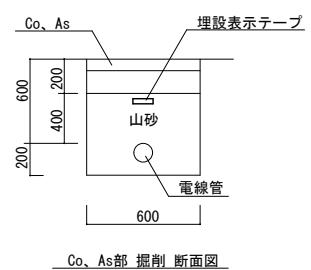
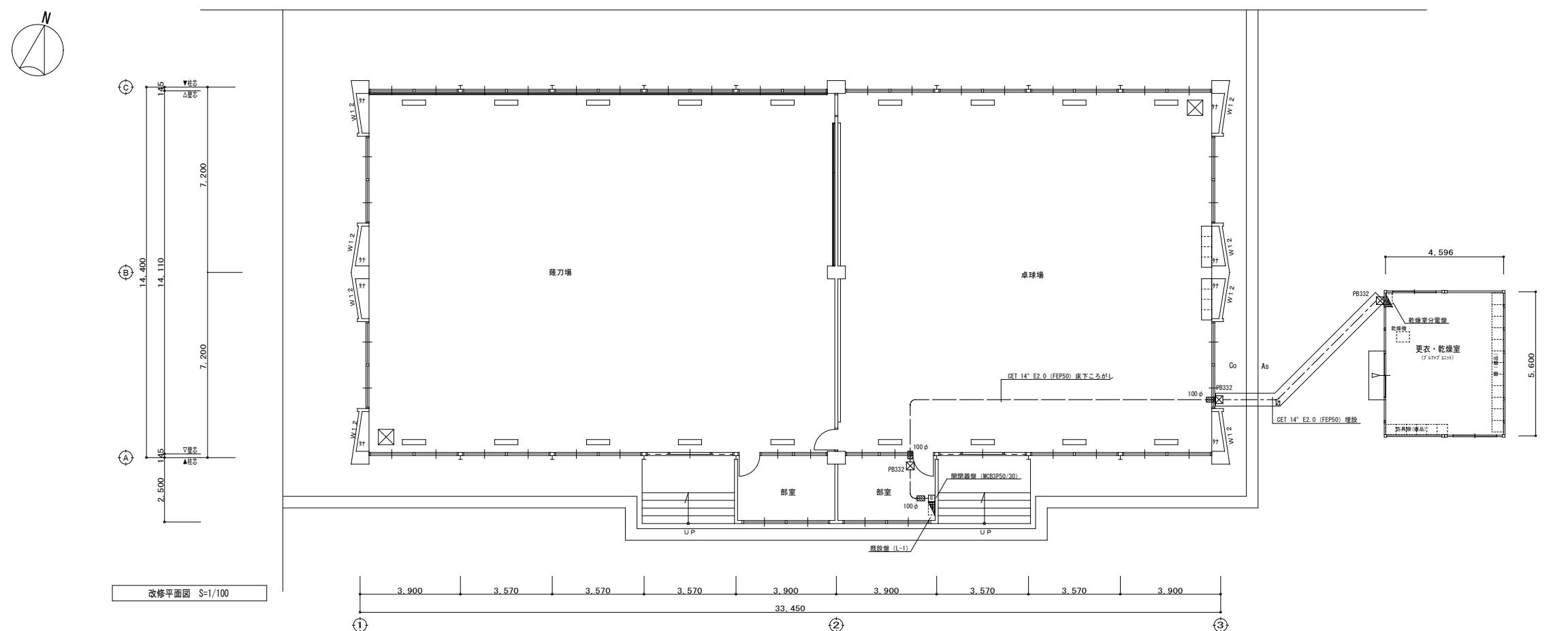
平均気温	$8 \leq \theta$	$0 \leq \theta < 8$
S_m	+3	+6

※暑中期間(7月)

※本図は標準プランを想定した参考基礎図である。
最終的な基礎図は地盤調査及び構造計算により決定する。
基礎工事の際は申請図書の最終基礎図で施工を行うこと。



II 工事仕様書
 1 共通仕様
 (1) 図面及び特記仕様書に記載されてない事項は、国土交通省官房庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和7年版）」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和7年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工編）（令和7年版）」（以下、「標準図」という。）による。
 (2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、機械設備工事の工事仕様書は(/)図、建築工事の工事仕様書は(/)図による。
 (3) 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合、排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。なお、排出ガス対策型建設機械に代えて、認定された排出ガス浄化装置を装着した建設機械についても、同等の建設機械とみなすこととする。
 ※ 排出ガス対策型建設機械とは、指定要項に基づき指定された排出ガス対策型建設機械をいう。
 (4) 既存に手を入れる場合は原形復旧を確実に行う。
 (5) 既存引戻し壁・床の穴明は、原則としてアーモンドカットを使用する。
 (6) 必要と思われる工事は監督員の指示で行う。
 (7) 支持金物、ビス類は容易に腐食しないものとする。



凡例
 PB332 PB300° x200 SUS・WP
 100φ はとり工事 100φ-150 床、壁
 □ 埋設柱 鉄製

設計変更年月日	工事名 牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号
1回 年 月 日			
2回 年 月 日			
3回 年 月 日	図面名 電気設備 現況平面図・改修平面図	設計年月	1級建築士登録第 号

PE
01